

日本—欧州 5 か国 国際共同研究「持続可能な社会のためのスマートな水管理」 2022 年度 年次報告書	
研究課題名 (和文)	「スマートシティにおける水再利用のための組織的意思決定フレームワーク (SMART-WaterDomain)」
研究課題名 (英文)	Framework for Organisational Decision-Making Process in Water Reuse for Smart Cities (SMART-WaterDomain)
日本側研究代表者氏名	福士謙介
所属・役職	国連大学サステイナビリティ高等研究所 アカデミック・プログラム・オフィサー
研究期間	2020 年 4 月 1 日 ~ 2024 年 1 月 31 日

## 1. 日本側の研究実施体制

氏名	所属機関・部局・役職	役割
福士謙介	国連大学サステイナビリティ高等研究所 (UNU-IAS) アカデミック・プログラム・オフィサー	研究統括、他機関とのコーディネーション、モデル基幹部分のデザイン
Geetha Mohan	UNU-IAS リサーチ・フェロー	経済分析
藤塚哲朗	UNU-IAS アドバイザー	日本の水処理技術調査の支援
橋本崇史	UNU-IAS コンサルタント	プロジェクト管理、日本の水処理技術のレビュー作成、モデルの構築
吉永恵実	UNU-IAS プログラム・コーディネーター	プロジェクト管理支援、協力大学との連携支援・広報実施支援
梅津茜	UNU-IAS プログラム・アソシエート	資金管理・物資調達・広報実施支援・出張会議手配

## 2. 日本側研究チームの研究目標及び計画概要

1) WP3 (ケーススタディの実施) では、WP1, WP2 での調査結果に基づき、パイロットスタディの対象を定め、再利用業者の 相互関係・経済に影響を与える項目を特定し、日欧への適用可能性について探る。

2) WP4（定量評価のためのツール開発）では、ステークホルダーの基準の定義と検証を行い、日欧で検証するためのリアルタイムでデータ収集と分析を行うことができるツールの開発に貢献する。

3) WP6の一環として、情報共有や広報に関する協議を行い、内部関係者の協力体制を確立する。

### 3. 日本側研究チームの実施概要

本研究では、排水の再利用を促進するための体系的な枠組み（スマートな水利用）を開発する。開発された枠組みは、水の再利用が経済社会にもたらす効果を総合的に評価するツールであり、このツールを用いて企業による水再利用に向けた取り組みを支援する。

日本側研究チームの2022年度の主たる活動は、

- 1) 日本の水再利用に関する事業モデルの欧州への適用可能性の調査
- 2) 水再利用に関する意思決定サポートツールの開発に貢献すること、
- 3) アウトリーチの基盤整備

である。具体的には、日本における水再利用の現状・事例・潜在的機会等に関して欧州各国と共有し、Best Practice 事例として欧州各国と共有し、水再利用促進に向けた事業モデルとしての適用可能性の調査を実施する。また水再利用の適用性の検討におけるステークホルダーの意思決定を支援するツールを日欧それぞれの地域の文脈に基づき開発する。SMART-WaterDomain プロジェクトのアウトリーチ基盤としてウェブサイトの構築を進める。本研究は日本と欧州5か国との共同研究であり、参加機関との間での技術面・運営面での協議や調整も随時行う。この協力を通じて、日欧両地域に適用可能なツールの開発を目指す。